

家畜保健衛生だより

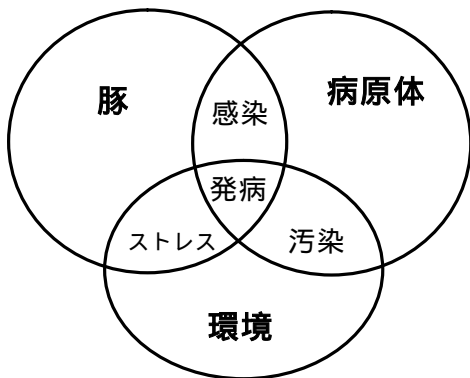
平成28年度 第10号

適切な飼養管理で、豚呼吸器病対策を！

10月になり徐々に涼しくなってきました。これからの季節は1日の気温の変動もあり、日によって寒暖差があることから、豚の呼吸器病が発生しやすい時期です。呼吸器病は一つの原因によって引き起こされることはほとんど無く、様々な要因が複雑に絡み合って症状を悪化させます。そこで、適切な飼養管理を行い、豚の呼吸器病対策を実施しましょう。



1. 豚呼吸器病の発症要因



要因	具体例
環境要因	すきま風、密飼い、餌や水不足、豚房の移動、寒暖差、ほこり、アンモニアなど
病原体	細菌：豚胸膜肺炎、豚パスツレラ症、豚マイコプラズマ病など ウイルス：豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）、豚インフルエンザなど

2. 飼養管理対策

畜舎の温度管理と換気

この時期は日ごとに、あるいは昼夜の気温が上下しやすい季節です。日中は夏と同様の管理、夜間はカーテンを閉めるなど、変化に合わせた温度管理が必要です。畜舎内の1日の温度差を肥育舎では5（離乳舎は2.5）以内に抑えるようにしましょう。しかし、温度管理ばかりに気をとられ畜舎を閉め切りがちになると、アンモニアや粉塵が増えて粘膜を刺激し、呼吸器病が発生しやすくなりますので、換気にも気をくばりましょう。（冬季は湿度も大切です。）

病原体の常在化防止

豚舎の消毒および乾燥の徹底、オールイン・オールアウト又は、正しいピッグフローの実施、病豚の早期発見、早期治療などにより、病原体の常在化を防ぐことが大切です。また、農場の汚染状況に応じた適切なワクチンを正しく接種しましょう。

ストレスの低減と適切な飼養環境

ストレスが強いと豚の抵抗力が低下し、発病しやすくなります。したがって、ストレスを出来るだけ軽減しましょう。例えば、すきま風対策の実施、飼養密度を下げる、頭数に見合った餌槽・給水器の設置、十分な飼料・水の給与、豚房を清潔に保つ、移動の回数を減らすなどの管理があげられます。

PEDの新シーズンに入りました！

(PEDの活動期(シーズン)を便宜的に9月～翌年8月末までとしています。)

PED(豚流行性下痢)の発生は、下表のとおり発生県数、発生戸数、発症頭数および死亡頭数は、毎年減少傾向にあります。しかし、農場へPEDウイルスの侵入を許してしまうと、出荷頭数の減少など収入面への影響は大きく、また、清浄化までの労力・費用・精神的な負担は大きいと推察されます。

前シーズンの神奈川県は発生ゼロであったことは、生産者並びに関係者の皆様のPEDに対する侵入防止対策が有効に機能した結果です。今シーズンも、今までで実施してきたPED侵入対策を再確認して、今シーズンも発生ゼロを目指しましょう。

(表) PED(豚流行性下痢)の発生数(シーズン毎)

シーズン期間	発生県	発生戸数	発症頭数	死亡頭数
H25.10～H26.8	38 道県	817 戸	1,289,933	419,862
H26.09～H27.8	28 都道県	233 戸	305,821	79,335
H27.09～H28.8	16 道県	107 戸	128,699	26,113
H28.09～	0 県	0 戸		

農場におけるPED侵入防止対策

- ✓ 動力噴霧器等による車両のタイヤや車体の洗浄・消毒の徹底
- ✓ 車両消毒の際、足下マットやハンドル等運転席周りの消毒の実施
- ✓ 農場出入り者への衛生対策の協力要請と消毒状況の確認の励行
- ✓ 農場内での専用の作業着と専用の作業靴の使用
- ✓ 定期的な場内消毒と、給餌・給水設備に野生動物の排せつ物が混入しないような管理

適正なワクチン接種を行きましょう！

PEDワクチンは妊娠豚に2回注射を行い、分娩後、ほ乳豚が乳汁を続けて十分に飲むことにより、PEDの発症を阻止または軽くすることができます。ワクチン効果をより引き出すために、1)用法・要領に従った使用、2)継続的な使用、3)母豚の健康管理、4)衛生的な飼養管理に努めましょう。

本病のまん延防止及び損耗防止のためには早期発見が重要です。異常豚が見られた場合には、直ちに家畜保健衛生所まで御連絡ください。

神奈川県湘南家畜保健衛生所

〒259-1215 平塚市寺田縄 345

TEL : 0463-58-0152 FAX : 0463-58-5679